

医療法人社団ルチア会
みやざき眼科
宮崎 明子 院長

みやざき眼科の宮崎明子院長（前列中央右）、スタッフのみなさんと、当院の井上（前列中央左）。患者さんの立場にたった診療と明るい笑顔で地域医療への貢献を目指す。



今回紹介するのは、井上眼科病院（1993～1995）、西葛西・井上眼科病院（1995～2001）に勤務していた宮崎明子先生。西葛西では病棟医長として、ベッドコントロールや看護師の教育などに当たるほか、網膜硝子体手術を数多く担当していた。

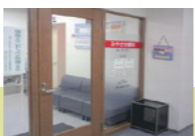
「民間病院でありながらレベルの高い診療・治療を行っていることに驚きました。毎朝の医局会では前日に診察した患者さんについて先代の井上治郎先生がコメントをくださり、カルテの書き方や所見の取り方、薬の処方など、細かいところまで教えていただきました」（宮崎先生）

そのほかにも、「患者さんが自分の親なら、兄弟なら」と意識して治療方針を決めるようにと教わったことが印象に残っているという。

退職後、江東区に開院した「みやざき眼科」では、日帰り白内障手術を中心に、糖尿病性網膜症の早期治療から、疲れ眼、かゆみ、コンタクトレンズのトラブルといった身近な症状まで幅広く診療を行っている。かかりたいときに気軽にかかれる眼科でありたいということから、あえて予約制にはしていないのだそう。「今まで他の眼科に通院していたけれど、足腰が弱くなってきて近くの眼科に通院したい、というような方もご相談いただけたらと思います」（宮崎先生）

医療法人社団ルチア会
みやざき眼科

電話：03-5665-1230
住所：東京都江東区南砂 2-6-3 サンライズ東陽 2F
www007.upp.so-net.ne.jp/miyazakiganka/



井上眼科だより

Inouye Eye Hospital NEWS

2016.04
vol.96

特集

「眼科医療のいま、むかし」

2016

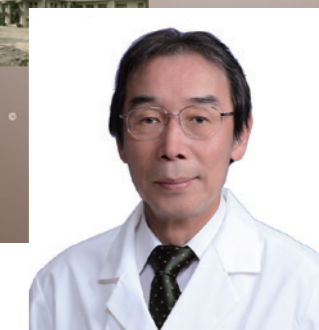


井上眼科病院は、今年で創立135年。

1971



1991



1881

1888

194

眼科手術の変遷

西葛西・井上眼科病院 院長 堀 貞夫

眼科は、臨床医学系の外科系分野に属する診療科と認識されています。眼球とその周りの組織に障害が生じた場合に、「見る」という機能が損なわれます。これに対する最終的な治療として外科的手段、つまり手術を行って対応するのが眼科です。

眼科の歴史が近代医学の発展とともに急速な進歩を遂げたのは、20世紀の初め頃と思われます。1950年代には様々な手術機器や手術方法が開発され、外科的治療が大きく発展しました。私が眼科の研修を始めた1970年代には白内障手術が大転換期を迎え、白内障の濁りを取るだけの手術から眼内レンズの移植を同時にする現在の手術方法の基盤が形成されました。網膜硝子体手術はさらに目覚しく発展し、網膜剥離や糖尿病による眼底（硝子体）出血の手術の発展は一時花形となりました。

しかし、時代を見る目は、治療のために

加わる眼への侵襲をなるべく小さくする小切開手術に向けられ、ひいては手術をしない薬物療法が注目されるようになりました。近年、視力障害の原因として注目される加齢黄斑変性や糖尿病網膜症の新生血管や黄斑浮腫は、抗 VEGF 抗体という癌治療薬や抗炎症作用のあるステロイド薬が治療の趨勢を占めるようになりました。もちろん薬の治療に手術治療を加えることで、最大の効果を挙げようとしています。日本における近代眼科学の発展の中でも、最近の数十年前はことに大きな変貌が見られました。

井上眼科病院グループは、この発展の最前線で日々診療を続けています。西葛西・井上眼科病院も新築移転して1年。手術室の拡充をはかったこともあり、より多くの症例に対応してきました。今後もさらなる発展に向け、職員一丸となって取り組んでいきます。

NEWS 井上眼科病院グループからのお知らせ

5/22 (日) 大宮・井上眼科クリニック内覧会開催!

「大宮・井上眼科クリニック」の内覧会が下記日程で開催されます。ぜひお気軽にお越しください。

大宮・井上眼科クリニック 内覧会
2016/5/22 (日) 10:00～12:00

また、6月1日の開院に向け、予約を開始しました。受診をご希望の方は下記の電話番号へご連絡ください。

ご予約お問合せ ☎ 048-871-8471

※ご予約の際は「大宮予約の件」とお伝えください。
※内覧会に関するお問合せもこちらでお受けします。



【診療内容】眼科一般 / 緑内障 / 神経眼科 / 小児眼科 / 日帰り白内障手術 / 網膜硝子体手術
【住所】埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-8-1 ベルヴェオオフィス大宮 3F (大宮駅西口徒歩3分)

若倉雅登医師 医療小説 第2弾が発売中!

井上眼科病院名誉院長 若倉医師の小説「茅花(つばな)流しの診療所」(青志社/定価 1,400円+税)が発売中。わずか19歳で医師となった明治の女医の生涯を描いています。メガネの井上本店にて特別価格で販売中!

無料説明会開催中!

日程詳細、お申込み、問合せは職員またはホームページへ

◆レーシック説明会

個別相談、適応検査も可能です。
4/13(水)・5/25(水) 18:30～

◆プレミアム白内障手術説明会

最先端レーザーと高機能眼内レンズを用いた白内障手術の説明会。月2回。

新入局医師ご紹介!

西葛西



中村 嘉代 医師
(なかむら かよ)

2016年2月より勤務開始いたしました。主に一般外来を担当しております。少しでも良い医療を提供できるように努力してまいります。

ご意見・ご感想を ☎ press-agent@inouye-eye.or.jp (広報課)までお寄せください

発行：医療法人社団済安堂 井上眼科病院 www.inouye-eye.or.jp
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4丁目3番地 TEL 03-3295-0911

QRコードを読み取ると→
メールフォームが開きます



眼科 いま ↔ むかし 医療の

『いつの時代も最先端の眼科医療をー』

当院の歴史は、常に最新の研究、技術、治療法とともにありました。今回はその当時の出来事と当院の最新眼科医療をご紹介します。

1881 (明治14) ● 井上眼科病院創立。
 (「済安堂医院」開設)

1884 (明治17) ● 『井上式白内障手術法』の開発。
 『防腐的前房洗浄法』の完成。

1888 (明治21) ● わが国最初の眼科研究団体
 「井上眼科研究会」発足。



1890年頃。無菌手術室をはじめ画期的な新設備を備え、夏目漱石などの著名人も通ったとされる。

1916 (大正5) ● わが国最初の「図画試視力表」を作成。

1945 (昭和20) ● 東京大空襲で1,000人以上の患者を治療。
 視能訓練士制度の確立と育成に努める。

1971 (昭和46) ● 医療法人社団済安堂を設立。
 病院名を「医療法人社団済安堂井上眼科病院」に改称。

1972 (昭和47) ● 厚生省の研究班として、国内で初めてベーチェット病の実態調査を発表。

1986 (昭和61) ● 「井上眼科だより」第1号発刊。

患者さまに病院や病気のことをよく知っていただくことを目的に発刊した本紙も今年でなんと30周年！

1991 (平成3) ● 「西葛西・井上眼科病院」開設。

1999 (平成11) ● 「目の相談室」を設置。
 ロービジョンケアシステム導入。
 近視矯正手術を開始。

2006 (平成18) ● 「お茶の水・井上眼科クリニック」開設。

2015 (平成27) ● 「西葛西・井上眼科病院」新築移転。

2016 (平成28) ● 135th 眼科医療をリードする医療機関を目指しこれからも努力してまいります

むかし 医療先進国の高評価を得た手術

初代井上達也により、使用機器等の徹底的な消毒や手術室の空気循環など、きわめて科学的な管理下で白内障手術が行われ、「井上式白内障」なども独自開発された。



いま 「眼の総合病院」として様々な手術を扱います



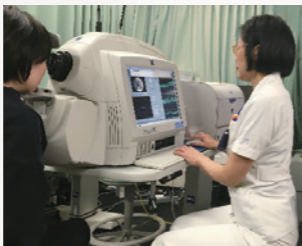
白内障、緑内障、網膜硝子体、眼瞼、斜視、鼻涙管閉塞、角膜移植、レーシック手術など、扱っている手術は様々。手術を担う井上眼科病院、西葛西・井上眼科病院の年間手術件数は、すべて合わせて11,462件。(2014年度実績)

むかし 眼科検査の品質向上に尽力

度重なる改良の末、第7代井上達二が作成した「コ型式視力表」(右)は、検査能率の点で優れていた。また、第8代井上正澄は視能訓練士法の成立に注力、検査の質を向上させ、治療をより効果的なものにした。



いま 充実の検査設備と、信頼できる検査スタッフ



視力、屈折、眼圧、視野、眼底・前眼部の撮影といった検査のほか、詳細な画像解析検査も可能に。これら様々な専門的な検査を視能訓練士、看護師などが担当し、患者さまの大切な眼の健康を守るお手伝いをしています。

むかし いち早くロービジョンケアの重要性に着目

ソーシャルワーカーや視能訓練士が、ロービジョン者の見え方、福祉や補助器具、リハビリや社会復帰など、目に関するあらゆる相談を受ける「目の相談室」を設置。現在の「ロービジョン外来」の前身となった。



いま ロービジョン者に寄り添う眼科診療を考える



専門外来によるロービジョンケアはもちろん、ロービジョン者でも安全に過ごせる医療空間を目指し、当グループの全施設で床やサイン、導線などの工夫(ユニバーサルデザイン)を採用しています。



開院1周年のお礼

西葛西の地に分院を開設して、今年で25年になります。一般外来、小児、コンタクトレンズ外来の3施設を1つに統合し、より利便性の高い病院を目指しリニューアルしてから1年。これからも、地域の皆様に貢献できる病院となるよう努力して参りますので引き続きよろしくお願いいたします。(理事長 井上賢治)

ユニバーサルデザインを取り入れた新病院で新たな気持ちでスタートしてから1年。これからも外来処置室、手術室、病棟、医療相談室の看護師が、患者さまおひとりおひとりの気持ちを大切にされた看護に努めてまいります。(看護部 荒井桂子)

新病院では患者さまに快適にお過ごしいただけるよう導線・空間づくりをいたしました。これからも安心・安全・快適な診療を目指し、確かな検査技術と患者さまに寄り添う心で検査員、診療助手一同、お迎えいたします。(診療技術部 黒田有里)

西葛西・井上眼科病院 リニューアル開院 1周年



今後ともどうぞ
よろしくお願いいたします

西葛西・井上眼科病院 職員一同

おかげさまで、 1周年を迎えました！



移転当初は電子カルテの導入などもあり、医師、スタッフも不慣れで患者さまにご不便をおかけする事も多かったと思いますが、1年が経ち、落ち着いて患者さまに向き合える体制が整ってきたように感じます。これからも地域に密着した病院として、職員一同頑張っていきますので、末永くよろしくお願いいたします。(副院長 井上順治)

電子カルテなどの新しいシステムが導入され、薬剤課では、薬に関するシステムが円滑に進むよう取り組みました。導入期を経て、今後、さらにシステムを活かして患者さまへ薬が安全に使用されるよう努めてまいります。(薬剤課 桐原陽子)

まもろう！ こどもの目 vol.3

学校医から皆さんへ

校医は生徒ひとりひとりと接しながらアドバイスをしたり、質問を受けることも。保健委員会などで保護者と接する機会もあり、気軽に会える身近な眼科医として、生徒たちの眼の健康を見守っています。

こどもたちの将来を守るために

最近の学校健診では、学年にもよりますが、スマートフォン使用時に眼を休ませるといったことや、コンタクトレンズの正しい使用方法などのアドバイスをすることもあります。ぜひ知っておいてほしいのは、学校健診では2003年より廃止になった色覚検査のこと。色覚異常があっても日常生活は差し支えないとされていますが、色覚に縛られる職業もあります。自分の色覚異常について知らなかったために、積み上げてきた何かを諦めるようなことがあってはならない。どこかのタイミングできちんと検査を受けていただきたいです。

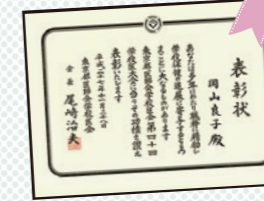
信頼できる小児眼科外来として

当院には小児を対象とした専門の外来があります。こどもの検査の場合、お子さんが検査に慣れていないと検査結果にばらつきがでることもあります。その点、当院の小児眼科外来ではキャリアを積んだ小児眼科担当医師と視能訓練士が診察・検査にあたります。安心して受診してください。



お茶の水・井上眼科クリニック
院長 岡山良子 医師

眼科専門医。長きに渡り学校医を務め、2015年11月「東京都医師会学校医会第40回学校医大会」において表彰された。今回の表彰はなんと2度目。



学校健診における眼科検査とは？

学校健診では、0.3、0.7、1.0の3種類の大きさの視力表を用います。結果はA～Dの4段階。左右どちらかがCかDなら眼科受診を。学校健診から眼科を受診する生徒に特別な疾患が見つかることは稀で、多くは近視の進行が問題に。(岡山先生)

